

令和4年度第1回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会 緑整備部会記録《要旨》

○日 時：令和4年10月7日（金）午前10時00分～午前12時00分

○場 所：万博記念公園事務所4階 第2応接室

○出席委員：山田部会長

（以下委員は、オンライン参加）

今西専門委員、大藪専門委員、檀浦専門委員

○事務局：万博公園事務所長 ほか

内容：以下の議事について、協議

1. 万博の森の育成について
2. 日本庭園の更なる魅力づくりについて

1. 万博の森の育成について

事務局

資料3で以下の4つの概要説明

（1）万博の森の育成について（昨年度のふりかえり）（資料3-1）

（2）モデルエリアの現状（資料3-2）

事務局

本日欠席の井原委員からご意見をいただいている。目標林型クヌギ林の3-3について、つる植物が多く見られるため、今後つる性植物の管理についてしっかり検討し、対策を行っていただきたいとのコメントをいただいている。

山田委員

大阪府として意見があれば、お願いしたい。

事務局

今年度は除草を年2回実施しているが、つる植物がかなり繁茂しているため、年3回以上除草を実施する必要があるかと考えている。

山田委員

つる植物なので、根を抜かないと対策にならない。除草作業に加え、伐根等、根から除去する対策をご検討いただきたい。除草してしまうとどれがつる植物かわからなくなるので、刈る前に伐根する必要がある。

事務局

検討する。

今西委員

モデルエリアについて、今年度は除草のタイミングがうまくいかず、モニタリング実施前に残したい実生の位置を把握できないまま除草されてしまったと記憶している。今後は、草刈りのタイミング等を考えていただき、保護した実生を活用し、目標林型に誘導することができるのかをモニタリングしていただきたい。

また、3-13の樹木は幹の途中から葉や枝が出ているので、伐開をしたことで光条件が改善し、高木も現状の細い状態から肥大成長して形のよい樹形になる可能性があるが、現状では台風等による倒木の可能性がある。

今回の施業が最適なものだったのかという評価は、この1～2年では難しいのではないかと考えている。来年度、新たにモデルエリアを設けてとりまとめを行い、今後の森づくりの検討を行うスケジュールになっているが、森の反応の時間的スケールを考えるともう少しゆっくりと計画を進めてもよいのではないかと印象を持った。

山田委員

発注のタイミングは調整できないものなのか。

事務局

今年は発注のタイミングがずれてしまったので、来年度以降は発注の仕組みを変えて対応していきたい。

山田委員

対応をお願いしたい。

また、もう少し長期的なスパンで見えていただきたいという意見について大阪府としての考えはいかがか。

事務局

森自体を育てていくということ考えると、30～40年という長期にわたって、将来どう育てていくかを検討する必要があると考える。今西委員からご指摘があったように、昨年度の施業は性急だったと我々も思っているため、もう少し長期的なスパンで考え、経過を見ながら計画を進めていく必要があると思う。

一方で、結果が出るまで何もしないというわけにもいかないと思うので、これまでのように1年で100%目標林型の状態にすることを指すのではなく、段階的に密度を減らす施業を実施する等、施業による急激な環境変化が起きないように進めていかなければならないと思う。

山田委員

林班に対し、一気に常緑樹を皆伐するか、徐々に伐採するかというと、徐々にする方がコストは高くなるのか。

事務局

確かにコストは高くなるが、コストだけの話ではないと認識している。それぞれの林班に適した森林施業を少しずつ進めていく必要がある。目標林型の最終形態が1年後にできるのではなく、4～5年もしくは10年程度かけて徐々に施業していけば、急激な変化とはならないと思っている。

今西委員

3-2のような元々落葉樹が多い場所は施業が上手くいっている印象だったが、3-13や3-30は伐採木が多く、この施業でよいのかわからない印象なので、長期的な視点でお願いしたい。

事務局

3-13について、7月の除草作業後に生えてきた実生は、現在保護している状態である。その画像をご覧いただきたい。緑のネットで囲んでいるものが保護している実生である。

山田委員

このネットは、除草作業前に設置したものか。

事務局

そうである。この画像は2回目の除草作業後に撮影したものである。モデルエリアの奥の方はササを伐採したが、その奥に低木が残っているので、開けた状態にはなっていない。

大藪委員

今西委員と重複するが、伐採が多すぎて先枯れが起きているところがあると思う。日射による地表面温度等が影響している可能性があるが、もしかしたら伐採の際に切り下げ等の対策を行っていれば、3-30の倒木も起こらなかったかもしれない。風の環境の影響もあるかもしれないが、今回の倒木は事前の予見が可能だったのかを含めて、もう少し考えていく必要があると思う。

事務局

このエリアについては、細園路が現在立入禁止である。安全対策、風対策をしながら、細園路沿いの切り下げ・間伐等を行っている。

山田委員

このケヤキは倒木後の調査で内部から腐食が見られたということなので、このケヤキ自体に問題があったと思うが、外観からは判断しにくいことであるため、中々難しいという印象である。今後もこういったことが起こる可能性があるため、留意していただきたい。

(3) 林型の細分化について (資料 3-3)

今西委員

希少植物の位置を正確に把握できていないという話だったが、希少種の生育地点はポイントで落とされているという話であったが、今後は実際の場所で生育範囲を確認していただけるのだろうと思っている。バッファの距離が20mになっているが、森林の樹高を考えると小さすぎる。確認されている希少植物は暗い林内に生育する種であ

ることを踏まえると、2倍（40m）程度のバッファを取っていただきたい。
もう1点、明るいクスノキ林にするという話が出ているが、明るいクスノキ林にする必要はないのではないか。希少植物が生育する森も明るいクスノキ林にする考えかどうかの説明は不明確であったが、常緑樹の密度は落とさずに今のまま維持し、モニタリングしながら希少植物が残るようにしていく方がいいのではないかと思った。
あともう1点、希少植物の生育地点図を我々は受領しているが、図を見ると、希少植物が特定の場所に集中的に生育しているようである。そういう場所は、できるだけ現状を維持できる計画を立て、周辺の環境を含めて大きいエリアとして残す計画にした方がよいのではないかと思う。

事務局

希少種のバッファのエリアについては、頂いたご意見を踏まえ細分化を再度検討していく。その結果、クスノキが多いエリアがバッファ内に入る場合は、明るいクスノキ林にする必要はないと思う。希少植物存在エリアは、そのまま残すと倒木の危険性などがある箇所では整理等のみ実施し、極力手を入れない方向で考えていた。

山田委員

危険な樹木は除去する必要がある。資料では、外来種に加えアラカシも除伐することになっているが、この方針は決定なのか。

事務局

今回は情報の重ね合わせが間に合っていないが、常緑樹に被圧されて落葉樹の本数が減少しているという話が過去の緑整備部会で上がっているので、非常に本数が多いアラカシを中心に伐採をしていくという方針を示している。

山田委員

希少植物を保全していくことを考えると、できるだけ現状維持した方がよい。希少植物のエリアについてはアラカシが生育していてもよいと思うが、希少植物のエリアにアラカシを残すと他のエリアに著しく広がっていくという問題があるのか。

事務局

施業の際に「伐採するのであればアラカシ」ということでアラカシを伐採対象としているが、アラカシ林の方が適切ということであれば目標林型をアラカシ林に転換するということはあるかもしれない。

山田委員

周囲に著しい影響を与えるようであれば検討が必要であるが、周囲に広がらないのであればアラカシを残してもよいと思うので、検討いただきたい。

檀浦委員

意見ではなくコメントであるが、毎木調査が行われるということは大変意義があると思った。伐採後の樹木の生育状況（生育の増減等）については、年輪解析をすると分かるので、調べてはどうかと思う。

大藪委員

ナンキンハゼのところ、あまり伐採しすぎると見通しが透けて見えるということがあったが、あそこは小高い丘になっていると思うので、そのあたりだけ残す形でも管理が可能なのではないかと思う。施業時に細かく指示が出せればコントロールも可能だと思うので、検討いただきたい。

事務局

検討する。

(4) 万博の森における安全対策に伴う園路沿いの補植について（資料3-4）

今西委員

検討例について、典型的な公園の植栽だなというのが第一印象であった。万博の森の場合は少し異なり、生物多様性の豊かな森、自立した森というコンセプトなので、他の公園とは異なるスタイルを示した方が、特徴が出て来園者にとっても価値がある体験になるのではないかと思う。

具体的には、検討例1は案2のネザサがよいと思う。タマイブキ、オウゴンコノテ、オタフクナンテンはいずれも園芸品種なので、控えた方がよい。検討例2は、いずれも園芸品種なので選定せず、北摂の山の中に自然に見られる種で選定して補植していただきたい。早春に花を咲かせるという考えはよいと思う。補植のために現在万博の森内で苗木を育成しているが、あのような形で北摂の森から種を採取して苗を作り、補植することがこれからの新しい公園にふさわしいと考える。

事務局

井原委員からご意見を頂いている。検討例1について、タマイブキは景観的に馴染まない。オウゴンコノテならまだしも、タマイブキやオタフクナンテンはやり過ぎであり、ネザサがよいと思う。検討例2の方は、ジンチョウゲは香りがきついで、梅の香りを消してしまう。ポケ類は具体的にどの品種を選定するかで印象が変わるので、配植が重要になってくる、とのご意見をいただいている。

大藪委員

検討例1はネザサがよいと考えている。他の種だと違和感がある。検討例2は、花という点はよいと思うが、ジンチョウゲは確かに匂いが強い。同じように早春に花が咲く里山みたいな状況を目指すのであれば、春先に咲く植物をどれだけ入れるかについても検討した方がよい。

檀浦委員

花木に関しては専門でないので分からないが、森の中で小さな花が咲いていると印象がよい。野の花のような野草が咲いていても印象はよいと思う。

もう一つ、レーダー探査について、倒木に対する安全対策という点では、園路等の全体を調査し、一度どれくらいの土層があるかを把握するのは大事だと思う。

山田委員

検討例2の場合も、全体にボケを植栽するというわけではないと思う。今西委員にご提案いただいたような、北摂の山の野草を育苗する話については、苗木を揃えるのにかなり時間を要するかもしれないため、造園木を植えてその間に苗木を育成する等、様々な意見を受けてご検討いただきたい。

2. 日本庭園の更なる魅力づくりについて

事務局

資料4で以下の概要説明

(1) 万博日本庭園の本質的価値と構成要素について（資料4-2、参考資料①）

事務局

井原委員からは、「広幅員の園路」を本質的価値の構成要素に追加するに当たって、何m以上を「広幅員の園路」とするかについて、「幅員4mの支線園路は優先的に整備され、延長においても支線園路の大部分を占めており、また視覚的にも明らかに広幅員と捉えられるので、4m以上を広幅員の園路とするのが妥当ではないか」というご意見をいただいている。
今回の資料内容については、井原委員より了解をいただいております、表現等についても井原委員のご意見を踏まえて修正を行っている。

今西委員

参考資料①の万博日本庭園の本質的価値の内容に関する説明の中で、「①万国博のレガシー」の箇所で「計画当初より永久に残すことが意識され」と記載されているが、この前に「現代の日本庭園として」等の文言を入れて、意味が明確になるようにした方がよい。この箇所の説明文が保存活用計画の中に記載されるのであれば、そのように修正してほしい。

山田委員

この箇所の説明文は、保存活用計画の中にも記載されるのか？

事務局

本質的価値についての説明文として保存活用計画にも記載する予定である。

山田委員

そうであれば、今のご意見を踏まえて修正を検討していただきたい。

山田委員

本質的価値の構成要素の分類について、「水景」と「点景物」という用語を使いたいと

いうご説明であったが、文化財の登録において、構成要素の分類に関して定められた用語はないか？

事務局

本質的価値の構成要素の分類については、定められた用語はないため、それぞれの文化財の特徴に応じて、相応しい用語を使えばよいと考えられる。

山田委員

登録対象となる文化財ごとに、同じ分類を別の用語で呼んでいたとしても問題はないということか？

事務局

特に問題はないと考えられる。

大藪委員

日本庭園の登録文化財への登録を進められているのは良いことだと思う。その中で、今後、文化庁と協議をしていくことになるが、登録にあたっては、審議官の意見が重要となってくるので、担当の審議官と意見をしっかりとすり合わせておいた方がよい。その際、こちら側でしっかりとした根拠を持っておくことが重要である。構成要素の「広幅員の園路」を幅員何m以上とするかといった点についても、根拠をしっかりと整理して、揺れ動かないようにしておく必要がある。

檀浦委員

今回、構成要素の分類について、「水景」と「点景物」というカテゴリーを追加されたのは、分かりやすく良いと思う。

大藪委員

私も京都市の無鄰菴庭園を管理していたことがあるが、今後は、日本庭園の元々の意匠を大切にしていって貰えればと思う。万博日本庭園の場合、ある程度資料が残っているので、当時の考え方や写真、図面などを基に、どの部分がオリジナルのまま、どの部分が変わったのかということ整理しておく、今後の改修も含めて、歴史的な情報を蓄積していくことができる。その辺りも含めて整理していただきたい。

山田委員

昨年度までの部会では、バリアフリー化や Wi-Fi の整備といった、現在の日本庭園の利用者に向けた施策が検討の中心であったが、今年度以降は、文化財への登録が大きな課題になってくると思う。しかし、今の日本庭園の管理や利用者に対するケアということも重要な課題なので、しっかり進めていただきたい。

以上